



短報

千葉県南房総市から得られた南限記録のギバチ（ナマズ目：ギギ科）

Southernmost record of *Tachysurus tokiensis* (Siluriformes: Bagridae) from Minamiboso City, Chiba Prefecture, Japan

尾山大知^{1*}・柴田将司²

Daichi Oyama^{1*} & Masashi Shibata²

キーワード：房総半島，淡水魚，絶滅危惧種，止水環境

Keywords: Boso Peninsula, freshwater fish, endangered species, water stagnation

はじめに

ギバチ *Tachysurus tokiensis* (Döderlein, 1887) は最大全長 30 cm に達するナマズ目 Siluriformes Cuvier, 1816 ギギ科 Bagridae Bleeker, 1858 の淡水魚であり，河川の中～下流域の流れの緩やかな流水環境や，止水環境に生息する（藤田，2019）．本種は神奈川県および富山県以北の本州に広く分布する（Watanabe & Maeda, 1995；細谷，2013；藤田，2019）．種の分布南限にあたる千葉県房総半島では，鴨川市以北から広く記録されているものの，最南端

の南房総市からは記録されていなかった（望月ほか，2011）．また，本種は県内における生息状況の悪化などを理由に『千葉県レッドデータブック』で B にランクされており（望月ほか，2011），県下での分布および生息実態に関する知見の蓄積が求められていた．

2023 年 8 月，著者の一人柴田は南房総市内の溜池において本種の幼魚 3 個体を採集した．本事例は本種の南房総市からの初記録であると同時に，分布南限を更新するものであり，県内における本種の保全施策の立案にも資すると考えられることからここに報告する．

材料と方法

採集調査は，千葉県南房総市杳見に位置する溜池（遠藤堰）で，2023 年 8 月 23 日に第 2 著者（柴田）1 名が手網を用いて行った．得られた魚類の一部は持ち帰り，氷殺後 10% 中性ホルマリン水溶液で固定した．その後 75% エタノール水溶液に置換して各部の計数計測や形態観察に供した．標本の計数計測方法は中坊・中山（2013）に従い，本稿における魚類の学名は本村（2024）に準拠した．標準体長

¹ 東京大学教養学部

〒153-0041 東京都目黒区駒場 3 丁目 8-1
College of Arts and Sciences, The University
of Tokyo, 3-8-1 Komaba, Meguro, Tokyo
153-0041, Japan

² 上智大学経済学部経営学科

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1
Department of Management, Faculty of
Economics, Sophia University, 7-1 Kioicho,
Chiyoda, Tokyo 102-8554, Japan

*Email: d-oyama@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

(Standard length) は SL と略記した。本報で使
用した標本は全て、東京大学総合研究博物館動物部門
魚類資料 (ZUMT) に登録した。

結果と考察

ギバチ

Tachysurus tokiensis (Döderlein, 1887)

(図 1)

標本: ZUMT 67102, 3 個体, 17.6–28.7 mm SL,
千葉県南房総市杓見, 遠藤堰, 2023 年 8 月 23 日,
手網, 柴田将司採集。

上記 3 個体は、尾鰭後縁の切れ込みが浅いこと、
背鰭棘が短く、背鰭基底長の 1.3 倍以下 (1.21–1.27
倍) であることなどが細谷 (2013) の示したギバチ
の標徴とよく一致したことから、本種に同定された。

本種は日本固有種で、神奈川県および富山県以北
の本州に分布する (Watanabe & Maeda, 1995; 細
谷, 2013; 藤田, 2019)。千葉県下からも広く記録
されているが、県内で最も南に位置する確認地点は
鴨川市であり、南房総市からは記録されていなかっ

た (望月ほか, 2011)。したがって、本報はギバチ
の南房総市からの初記録であると同時に、本種の分
布南限を僅かに更新する。

調査標本は、南房総市の山間部に位置する溜池で、
コンクリートで護岸された岸際の底層を遊泳してい
たところを陸上から目視されたのち、手網で採集さ
れた。池の外周の大部分はコンクリートや石垣によ
り護岸され、岸際にヒシ *Trapa jeholensis* Nakai,
1942, ヨシ *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex
Steud., 1841 が生育しているが、一部未護岸でヨシ
原が形成され、随所で多数のチビミズムシ
Micronecta sedula Horváth, 1905 が目視された。
同所からはシマヨシノボリ *Rhinogobius nagoyae*
Jordan and Seale, 1906 が採集された。

なお、本種の産卵期が 6–8 月であり、成魚の全長
が 15–20 cm 程度であること (藤田, 2019) に鑑み
ると、本研究で得られた 3 標本はいずれも当歳の幼
魚であると考えられる。

千葉県において、ギバチは生息地の数や規模など
の生息状況が急速に悪化しつつあり、急激な減少が
現在でも進行中であると考えられるとして『千葉県



図 1. 千葉県南房総市で採集されたギバチ (ZUMT 67102, 17.6–28.7 mm SL, 生鮮時, 和田英敏撮影)。

レッドデータブック 2011』で B にランクされている（望月ほか，2011）。止水環境にも比較的適応した本種は，流水環境のみならず，溜池にも生息するため（藤田，2019），本研究の採集地以外にも房総半島南部の止水環境で未発見の生息地がある可能性は十分考えられる。したがって，千葉県下における本種の分布および生息状況の実態を把握し，適切な保全施策を講じていくためにも，今後，房総半島南部の止水環境を含む小規模水域で積極的な分布調査が行われることが期待される。

謝辞

本報の取り纏めにあたり，藍澤正宏氏（東京大学総合研究博物館）には標本の作製および登録にご協力いただいた。和田英敏博士（神奈川県立生命の星・地球博物館）には標本の作製および登録にご協力いただくとともに，ギバチの生鮮時写真（図 1）を撮影いただき，本稿への掲載をご快諾いただいた。ここに記して感謝申し上げる。

引用文献

藤田朝彦（2019）：ギバチ。細谷和海（編・監修）「山溪ハンディ図鑑 15 増補改訂 日本の淡水魚」。山

と溪谷社，東京。pp. 218–219.

細谷和海（2013）：ギギ科。中坊徹次（編）「日本産魚類検索：全種の同定」。第三版。東海大学出版会，秦野。pp. 335, 1822–1823.

望月賢二・石鍋壽寛・間瀬浩子（2011）：ギバチ。千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編」。2011 年改訂版。千葉県環境生活部自然保護課，千葉市。p. 154.

本村浩之（2024）：日本産魚類全種目録。これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名。Online ver. 25. <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>（参照 18 June 2024）.

中坊徹次・中山耕至（2013）：魚類概説第三版。中坊徹次（編）「日本産魚類検索：全種の同定」。第三版。東海大学出版会，秦野。pp. 3–30.

Watanabe, K. & Maeda, H. (1995): Redescription of Two Ambiguous Japanese Bagrids, *Pseudobagrus aurantiacus* (Temminck and Schlegel) and *P. tokiensis* Döderlein. Japanese Journal of Ichthyology, 41: 409–420.